

家庭・地域とともに歩む舟戸学園連携教育の推進

川口市立舟戸幼稚園 園長 ^{よしだ} ^{あけみ} 吉田 明美

近年、情報化、グローバル化など、大きな変化を遂げる社会の中、舟戸幼稚園は、今年度開園70年目を迎える。本園はこれまでの歴史と伝統、特色ある教育活動を継承しつつ、さらに、社会の変化に対応する創造的で可変性に富んだ幼稚園教育を目指している。子どもの自発的な活動としての遊びを中心とした幼児教育を通じて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校の教師と共有することで、幼児教育と小学校教育との滑らかな接続を図っている。そして、舟戸学園としての連携教育を推進する中で、小学生、中学生、高校生、家庭・地域など、様々な年代の人々との交流を通して、生涯にわたる学びの支援を実践してきた。

1 幼稚園の概要

本園のある川口市は、埼玉県南部に位置し、東京都との境に荒川が流れている。本園は、昭和26年に開園し、川口市の中心部にありながら、荒川の土手沿いの緑豊かな環境に立地している。

今年度から3歳児保育がスタートし、年少・年中・年長組の総園児数65名が在籍している。

教育目標は、「あかるく・なかよく・たくましく」である。園内には、シンボルマークであるひまわりが咲き、舟戸小学校・南中学校と同じ敷地内に立地している環境を生かし、舟戸学園として連携教育を積極的に保育に取り入れ、小学生、中学生、高校生、未就園児、地域の高齢者など、様々な年代の人々との交流を通して、人と関わる力の育成に努めている。

また、雄大な荒川の自然を生かした多くの自然体験活動を取り入れ、生き物の命や自然を大切にしようとする心情や思いやりの心を育てている。

そして、川口市教育委員会より、毎年「学校間連携教育」の委嘱を受け、舟戸学園として、今年度は「学びをつなげ 夢をはぐくみ未来を拓く 連携教育の推進～他者とよりよく生きる幼児・児童・生徒の育成～」の研究に取り組んでいる。



2 連携を通して豊かな心を育てる教育活動

家庭・地域及び異校種との連携を密にし、相互の信頼関係を深め、ともに支え合う気持ちをはぐくむ幼稚園を目指している。幼児が様々な人とかわり、親しみがもてるように、様々な視点から連携している。

(1) 幼児・児童・生徒の連携

- ・日常の交流
- ・委員会の交流
- ・保育、授業の交流
- ・合同行事

(2) 異校種の教師の連携

- ・合同研修
- ・異校種体験研修
- ・接続期のカリキュラム作り
- ・専門性を生かした指導の活用

(3) 家庭・地域との連携

- ・保護者アンケートの活用
- ・幼稚園公開や親子ふれあい行事
- ・地域行事やボランティア活動の参加
- ・お正月遊びやもちつき等、地域の方との交流



七夕の笹飾りに短冊を一緒に飾って嬉しかったよ。(小)



幼稚園児・小学生・中学生が、毎日同じ門から登園・登校

3 舟戸学園の連携教育

小学校・中学校との交流活動や授業交流を通して、子供たちに豊かな心を育てている。舟戸学園の大きな特色を紹介する。

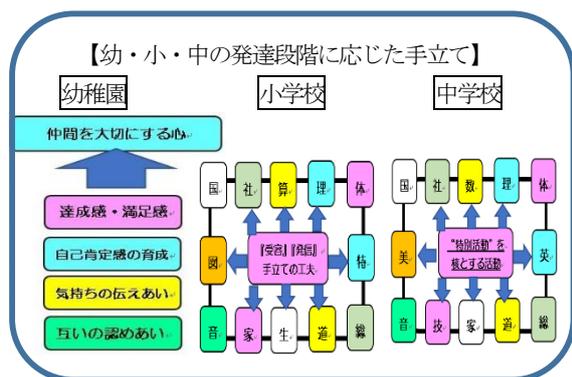
(1) <舟戸幼稚園 → 舟戸小学校 → 南中学校へ>

川口市では、平成31年度新入学児童生徒より学校選択制が廃止され、住所により入学する学校が指定された。ただし、舟戸幼稚園児が舟戸小学校を希望する場合は、申請期間の間に指定校変更申請書を提出することにより、舟戸小学校に通うことができる。また、同様に指定校変更により、舟戸小学校卒業生が南中学校を希望する場合も、申請期間の間に指定校変更申請書を提出することにより、南中学校に通うことができる。つまり、舟戸幼稚園児は、住所にかかわらず、希望・手続きにより、舟戸小学校→南中学校へと進学することができるということである。これは、舟戸幼稚園、舟戸小学校、南中学校が舟戸学園として連携教育を行っているからであり、特に、小学校へのより滑らかな接続が可能になるということである。舟戸学園の正門は一つであり、12年間同じ門を通り、幼・小・中の様々な交流を通して、子どもたちの成長を見届けることができる。

(2) 「学校間連携教育」の研究の継続

平成14年度文部科学省「幼小連携に関する総合的調査研究」の指定、平成17年度埼玉県教育委員会「確かな学びと育ちを追求する学校間連携」研究協力園の指定を受けている。そして、18年度より毎年、川口市教育委員会「学校間連携に関する研究」の委嘱校として、現在に至るまで研究を継続している。

今年度は、4月に舟戸学園学校間連携教育合同研修会が南中学校において開かれ、令和3・4年度川口市教育委員会委嘱の連携教育の研究に取り組んでいくことを、幼・小・中全職員が参加して確認をした。現在の舟戸学園の幼児・児童・生徒に身に付けさせたい力は、他者とよりよく生きる力であるにとらえ、研究の視点を『受容』と『発信』と位置づけた。そして、幼・小・中がそれぞれの発達段階に応じて、『受容する力』『発信する力』を培う研究を舟戸学園全体で取り組み、新たな連携教育をスタートさせた。



【舟戸学園連携教育 連携カレンダー】

※コロナ禍において、中止又はビデオ視聴等に変更した取組あり

時期	主な取組
4月	連携合同研修会①、小学校1年生の下校指導 小学校1年生の給食補助、合同あいさつ運動
5月	舟戸学園公開、救命救急法合同講習会、幼稚園避難訓練での不審者役
6月	手洗い指導、笹飾り作り、幼稚園誕生会出演、プール開き模範演技、地域学校保健委員会①
7月	合同七夕集会、中学校総合的な学習の時間交流、小中図書委員読み聞かせ
8月	夏季連携合同研修会②、小学生部活動体験
9月	幼小虫捕り交流、小学校の運動会参加
10月	幼小図書委員読み聞かせ、幼小縄遊び交流、幼小1生活科授業交流、舟戸学園合同集会 幼稚園の運動会参加、中学生家庭科授業交流、舟戸学園バザー
11月	舟戸っ子コンサート、「ふなとどうぶつえん」招待、小学校教諭保育体験
12月	幼稚園もちつき参加、小学校音楽集会参加、幼小2生活科授業交流
1月	幼小昔遊び交流、地域学校保健委員会②、きらり川口夢わーく体験事業
2月	幼年長小学校訪問、幼稚園豆まきでの鬼役、中吹奏楽部ミニコンサート
3月	連携合同研修会③、中3年生を贈る会出演、入学児童生徒連絡会、卒業祝いメッセージ
年間	連絡推進委員会（毎月）、研究授業・研究協議会、地域フラワーボランティア（年間4回）

同じ敷地内にある舟戸学園の小学校から、児童委員会活動での手洗い指導、七夕集会在実施できない代わりにビデオ視聴、なわ遊びや土手での虫捕り等、同じ敷地内という利点を活用して、場所や時間、人数を工夫して交流活動を行った。園児の多くが舟戸小学校へ入学する実態から、小学校へのスムーズな接続の一助となっている。



保健委員会の手洗い指導(小)



七夕の劇視聴(小)



なわ遊び交流(小)



土手での虫捕り交流(小)

コロナ禍以前には、入学前に年長組が小学校を訪問し、1年生のクラスに入って学習を体験した。年長組が劇で発表した「しらゆきひめ」や「ねずみの嫁入り」を題材にしてくれたので、子供たちも興味ももてる授業であった。ひらがなや前から何番目といった算数の学習も行った。1年生に学校を案内してもらい、また5年生と一緒に給食を食べ、小学校への期待が大きく膨らんだ一日になった。



授業体験・給食体験(小)



幼稚園の行事と生活科の授業交流(小)



また、舟戸学園の中学校から、総合的な学習の時間や家庭科の授業、きらり川口夢わーく体験事業(職業体験学習)で、幼児との交流や保育体験を実施している。異年齢と関わることで、園児にとっても中学生にとっても、ふれあう機会が多数計画されている舟戸学園で、社会性や協調性、思いやりの気持ちなどが育まれている



総合的な学習の時間、家庭科等での交流・保育体験
きらり川口夢わーく体験事業(職業体験学習)(中)



今年度は、家庭科部の中学生が園児全員に手作りのマスクをプレゼントしてくれた。園児も保護者も中学生の思いやりにとっても感謝していた。



家庭科部からの手作りマスクのプレゼント(中)

4 異校種の教師の連携

年3回の合同連携研修会を始め、救命救急法合同研修会、地域学校保健委員会、小学校教師の保育体験等、同じ敷地内に立地している環境が連携をし易くしている大きな要因となっている。また、接続期のカリキュラム(アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム)を幼・小の滑らかな接続に活用している。

卒園前には、小学校の校長先生より年長児の保護者に対して、小学校入学に向けての心構えについて講演をいただき、入学への不安の解消や保護者の教育力の向上に生かしている。



救命救急法合同講習



小学校1年生の給食補助



避難訓練の不審者役(中)



豆まきの鬼役(中)

5 高校生や未就学児との交流

(1) 高校生との交流

高校生の保育実習、家庭科クラブ、卒業メッセージ等で高校生と様々な交流を行っている。また、毎年、市内小・中・高校の異校種研修も積極的に受け入れている。



高校生の保育実習(高)

(2) 未就園児との交流

今年度は、在園児との交流をなかなか実施することができず残念であった。未就園児対象の「さくらんぼクラブ」では、園庭や遊戯室、絵本の広場等で、手遊びや読み聞かせを行っている。



未就園児の保育体験

6 家庭との連携

家庭と協力し合い、基本的な生活習慣や態度を身に付け、自立できるようにしていくことが重要である。

本園では、毎日の降園時を始め、保育参観や保護者会、教育相談、個人面談を通して、幼児期の発達や幼児期にふさわしい生活について、保護者の理解を深め共有するように努めている。

また、保護者が幼稚園での我が子の姿を理解したり、子育てについて考えたりできるように、「一緒に遊ぼう」（父親の保育参加、お話ママさん）、親子交通安全教室、親子ふれあいタイムを実施している。誕生会には、保護者が子育てについて交流する場も設けている。

弁当参観では、食育指導（幼児・保護者対象）を実施している。自分たちで準備や当番活動も進んで、喜んで行っている。コロナ禍での食育は、「もぐもぐタイム」としてよく噛んで、黙食に努めている。



食育の指導・弁当参観



親子ふれあいタイム



親子交通安全教室



父親の保育参加



お話ママさん

7 地域との交流

地域の高齢者と一緒に行う正月遊び、昔遊びやもちつきを幼児はとても楽しみにしている。

地域の消防署や交番訪問を行い、安全教育を推進している。



高齢者とのお正月遊び



地域の消防署訪問



地域の交番訪問

【届け心！つなげよう感謝！こだまプロジェクト】

川口市学校応援団による、川口市の医療従事者や頑張っている方々にエールと感謝を伝えようという取組である。その趣旨は、コロナ禍の中で頑張りながら疲弊する方々を励ますこと、お互いを思い合う心を深くし、思い合うことによるプラスの意識と元気を贈りたい。学校も地域も距離を保たなければならない今だからこそこは密に、感謝はこだまのように届けたい。これはSDGsの目標3・17にもつながるものである。幼児は生まれた場所、病気になったときや健康診断等、保護者はコロナ禍での感謝、誕生、病気等、命を守っていたことへの感謝をひまわりに載せて、学校医やワクチン接種会場に届けた。



8 終わりに

未来を担う子供たちは、誰もがかけがえのない大切な存在である。一人一人の自分らしさを尊重し、性別や国籍の違いなどにとらわれずに、それぞれの個性や能力を伸ばすことのできる子供たちを育成していくことが重要である。

今後、新しい生活様式のもとで、舟戸学園の特色を最大限に生かして、小学生、中学生、高校生、家庭・地域など、様々な年代の人々との交流をいっそう進めていく。そして、この連携教育の推進を中心に、さらに保育の質を高めて、子供たちの学びの支援に努めていきたい。